

佐野短期大学シラバス2013

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助実習Ⅰ Practicum in Fieldwork of Social WelfareⅠ		1年	後期	別途、時間割表参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	実験実習	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ（左記2科目の単位取得を経て、相談援助実習Ⅰの実習を許可する）				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
中島 佳子・大熊 信成・山田 昇		栄養棟3F	月～木の授業以外の時間	授業中に指示します
授業の概要				
社会福祉士の国家試験受験資格を目標に現場実習を通して、社会福祉専門職（相談援助）として仕事をする上で必要な知識や技術など授業科目において、学んだことを活用し、実際の援助現場で確認する。 「相談援助実習Ⅰ」では職場の構造（仕組み）と機能（働き）を全体的に理解することをめざし、職場実習を行う。				
授業の到達目標				
①学内での社会福祉や相談援助に関する知識や技術を実際の援助現場で確認し、業務の実際を知ることができるようにする。 ②社会福祉専門職としての自己理解と対象理解について具体的にかつ実践的に理解を深めることができるようにする。 ③実習機関・施設における仕事のルール、仕事の進め方を学ぶことができるようにする。 ④利用者とのコミュニケーション方法を学び、対象者理解に努めることができるようにする。 ⑤実習機関・施設で働く専門職を知り、多職種協働のありようを学ぶことができるようにする。				
授業の方法				
社会福祉施設及び機関での相談援助実習（一週間実習）				
学習の成果				
①学内で学んだ知識や技術を実際の援助現場で確認し、理論と実践を結びつけることができる。 ②社会福祉専門職としての自己覚知、利用者理解を深め、施設・機関の機能やニーズについて考えることができる。 ③社会人としてのマナーを守り、責任ある行動をすることができる。 ④多職種協働を学び、相談援助の内容や相談援助職の役割について理解することができる。 ⑤相談援助実習Ⅱにおいて自分が目指す領域を選択することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	配属された各施設・機関において48時間以上6日間の実習を行う			
第2回目	・配属先は、実習生の希望と居住地、実習計画を参考に実習生が選択し、教員と相談の上、決定する			
第3回目	・実習中は実習指導者の指示に従う			
第4回目	・記録を毎日作成し、期限までに実習指導者へ提出する			
第5回目	・利用者の個別の課題を理解すること			
第6回目	・日課やプログラムを把握すること			

第7回目	・ 作業や就労に対する支援を理解すること	
第8回目	・ 自立生活のための課題を理解すること	
第9回目	・ 職員の専門職としての倫理を理解すること	
第10回目	・ 職員の利用者に対する相談援助技術を学ぶこと	
第11回目	・ 社会福祉施設や機関の管理及び運営の効果的な方法を理解すること	
第12回目	・ 社会福祉施設や機関を中心とする地域ケアシステムを理解すること	
第13回目	・ スーパーバイザーとしての役割を明確にすること	
第14回目	・ 自己のパーソナリティなど、自分の特徴を把握しておくこと	
第15回目	・ 知り得た個人情報を絶対に漏らさないこと	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		
レポート		
調査報告書		
小テスト		
中間・学期末試験		
発表内容（態度含む）		
その他	100%	出勤状況、実習態度、実習巡回指導、実習指導者の評価、記録などにより総合的に判断する
教科書と参考図書		
教科書：ミネルヴァ社会福祉士養成テキストブック「相談援助実習」川廷宗之他／ミネルヴァ書房（相談援助実習指導Ⅰと同様）		
履修上の心得・ルール		
実習生としてのマナーやルール、実習に適した身だしなみを順守し、実習に臨むこと。		